

4. ご家族に関すること

これまでの調査の結果から、「家族」や「結婚」、「子どもを持つこと」は県民の幸福実感と密接な関連があり、県民の幸福実感向上のためには、結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなえられるようにしていくことが必要であるとしています。また、県民の意識などの変化を継続的に把握することも重要です。

ここでは、「結婚に対する考え方」、「理想の子どもの数と現実」、「結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについての考え方」などの集計結果について記載しています。

| 項目 | 質問文の概要 |
|-----------------------------|--|
| 結婚経験 | あなたはこれまでに結婚をしたことはありますか。 (問11) |
| 結婚に対する考え方 | (問11で「未婚」、「既婚・死別」、「既婚・離別」と回答した方へ) ・今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。 (1) いずれ結婚するつもり (2) 結婚するつもりはない (問13) |
| 理想の子どもの数 | ・あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。理想の子どもの人数をお答えください。 (問14) |
| 子どもの数 | ・お子さんは何人いらっしゃいますか。 (お子さんがいらっしゃる方へ) ・お子さんの年齢をご記入ください。 (問15) |
| (参考集計) 子どもの数の理想と現実のギャップ | ・理想の子どもの数(問14)と現在の子どもの数(問15)との関係 |
| 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについての考え方 | ・結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、次の例の中からあなた自身のお考えとして賛成できるものすべてに○をつけてください。 (問17) |
| 家事や育児・子どもの世話、介護などの時間 | ・あなたは1日の中で、家事(炊事、洗たく、そうじなど)や育児・子どもの世話、介護などにどのくらい時間をかけていますか。平日と休日に分けてお答えください。 (問18) |

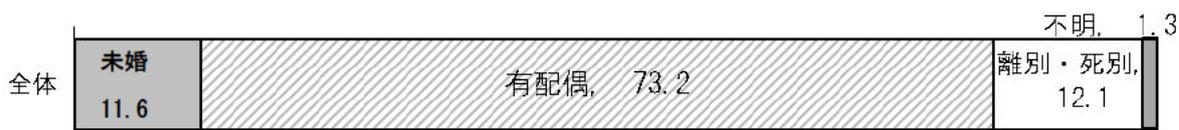
あなたはこれまでに結婚をしたことはありますか。

問 1 1

➤ 結婚経験

- 回答者の配偶関係は、「未婚」が 11.6%、「有配偶」が 73.2%、「離別・死別」が 12.1%となっています。

図表 2-4-1 配偶関係

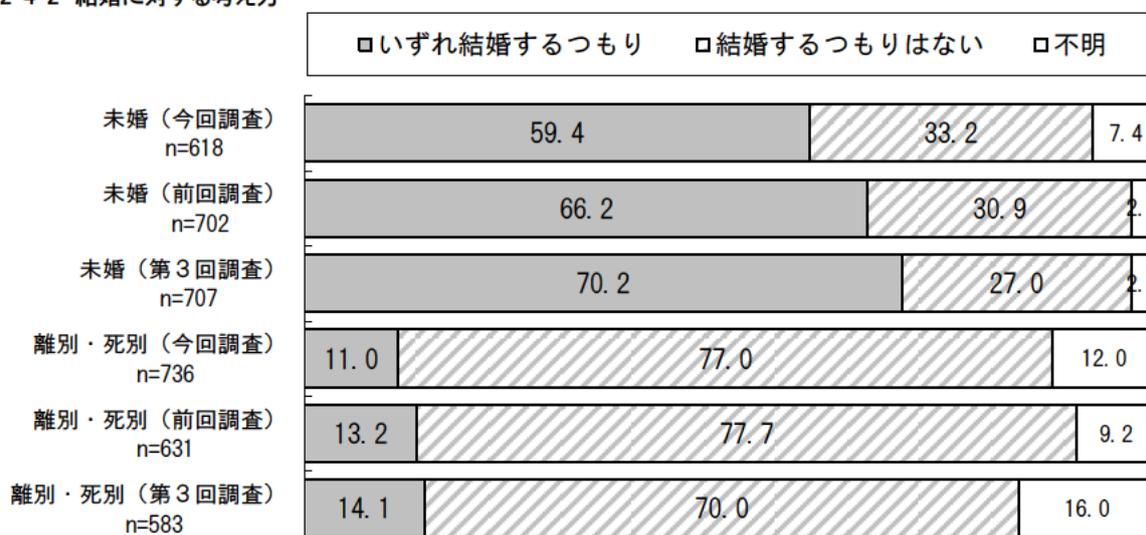


今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。問 1 3

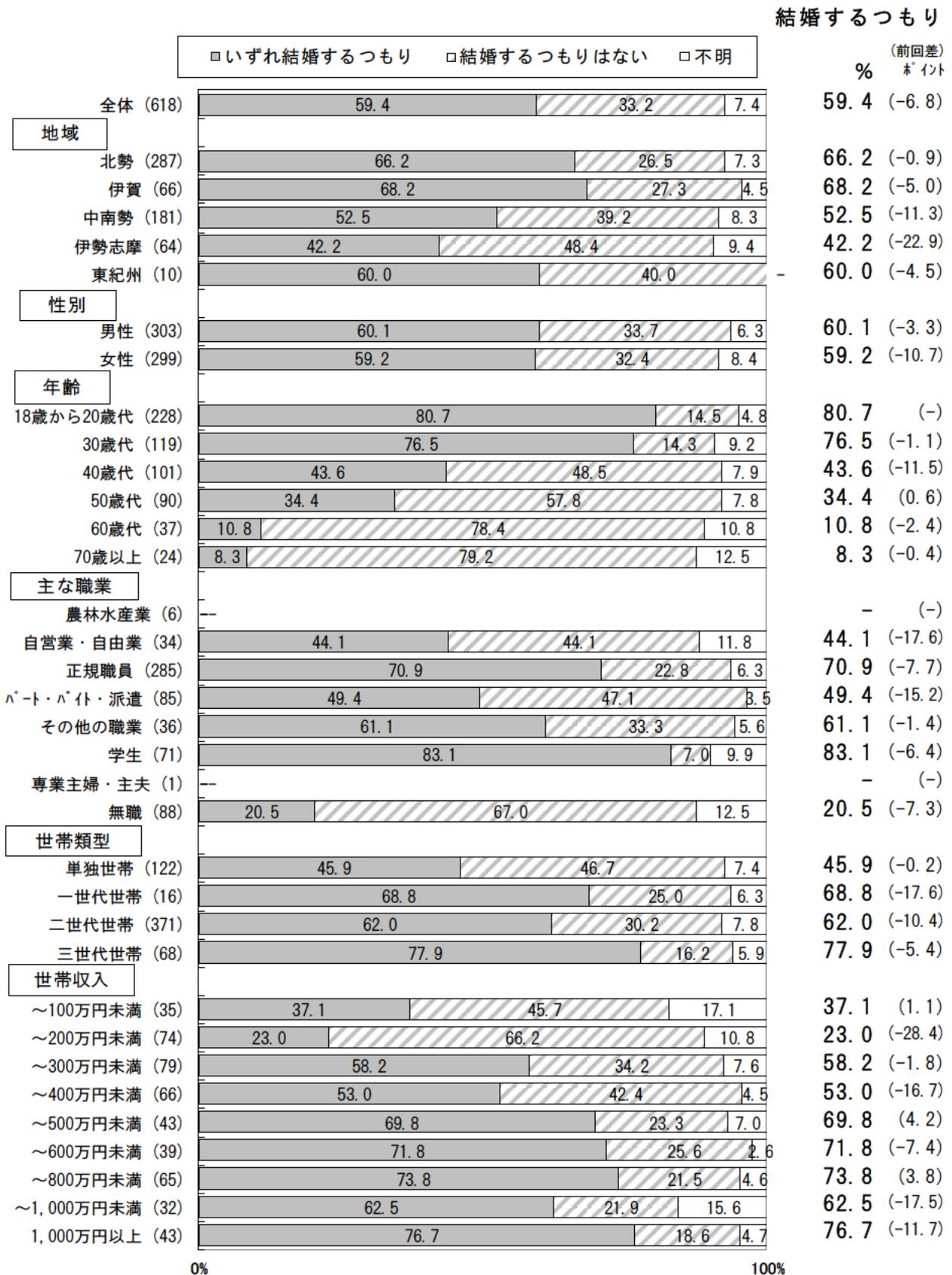
➤ 結婚に対する考え方

- 未婚の方または離別・死別した方に対して、結婚に対する考え方を質問したところ、未婚は「いずれ結婚するつもり」が 59.4%、「結婚するつもりはない」が 33.2%となっています。離別・死別は「いずれ結婚するつもり」が 11.0%、「結婚するつもりはない」が 77.0%となっています。
- 未婚も離別・死別も「いずれ結婚するつもり」が第3回調査及び前回調査より低くなっています。
- 「未婚」における属性や属性項目の主な特徴は次のとおりです。（※統計的有意性は未確認）
 - ・年齢（10歳階級）別で「いずれ結婚するつもり」の割合を見ると、20歳代（80.7%）、30歳代（76.5%）は全体より高い。
 - ・主な職業別で「いずれ結婚するつもり」の割合を見ると、学生（83.1%）及び正規職員（70.9%）は全体より高い。

図表 2-4-2 結婚に対する考え方



図表 2-4-3 「未婚」の結婚に対する考え方(属性別)



※ () 内はサンプル数です。

※農林水産業及び専業主婦・主夫はサンプル数が少ないため、非表示としています。

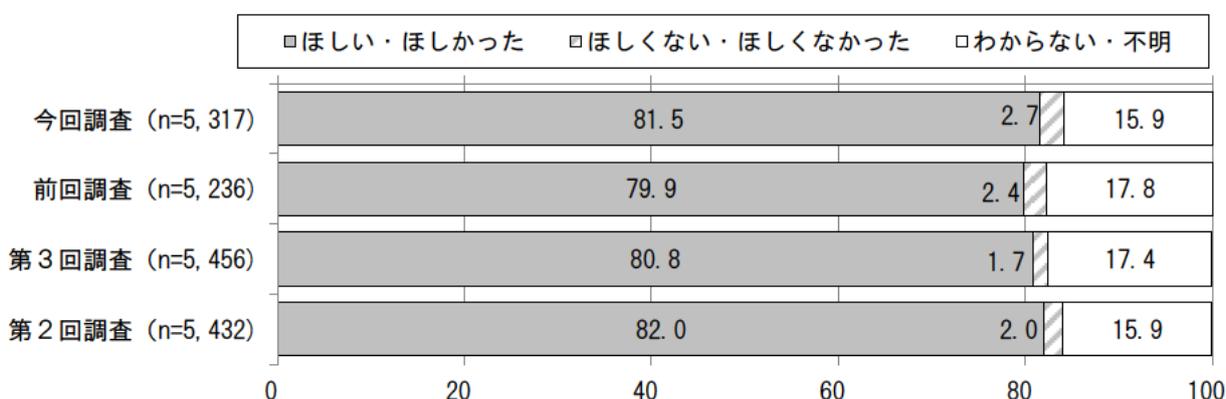
あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。理想の子どもの人数をお答えください。(〇は1つだけ。「1」に〇をつけた方は()に人数も記入してください。)

問14

➤ 子どもを希望する割合

- 子どもの希望を質問したところ、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は 81.5%で、前回調査より 1.6 ポイント高くなっています。

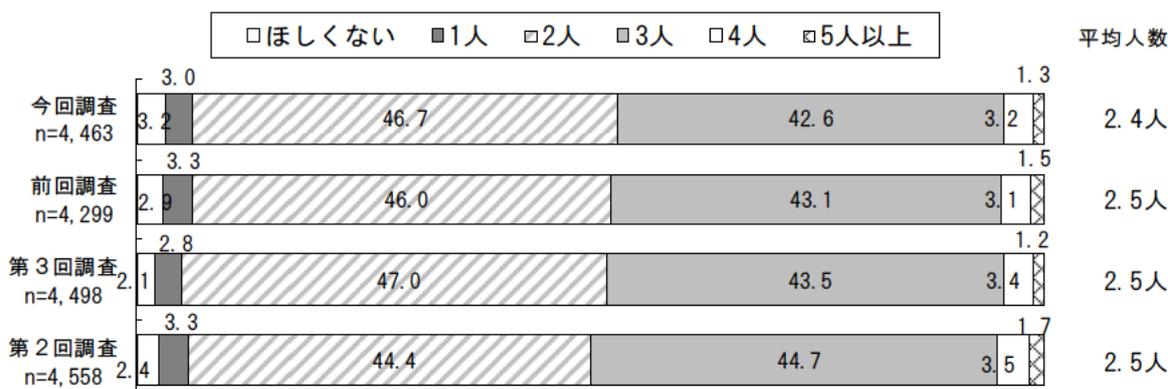
図表 2-4-4 子どもを希望する割合



➤ 理想の子どもの数

- 理想の子どもの数について、「2人」の割合が 46.7%で最も高く、次いで「3人」(42.6%)となっています。前回調査と比較すると「0人(ほしくない、ほしくなかった)」及び「2人」などの割合が高くなった一方、「1人」、「3人」、「5人以上」の割合は低くなっています。理想の子どもの数の平均は 2.4 人で、前回調査より 0.1 人少なくなっています。

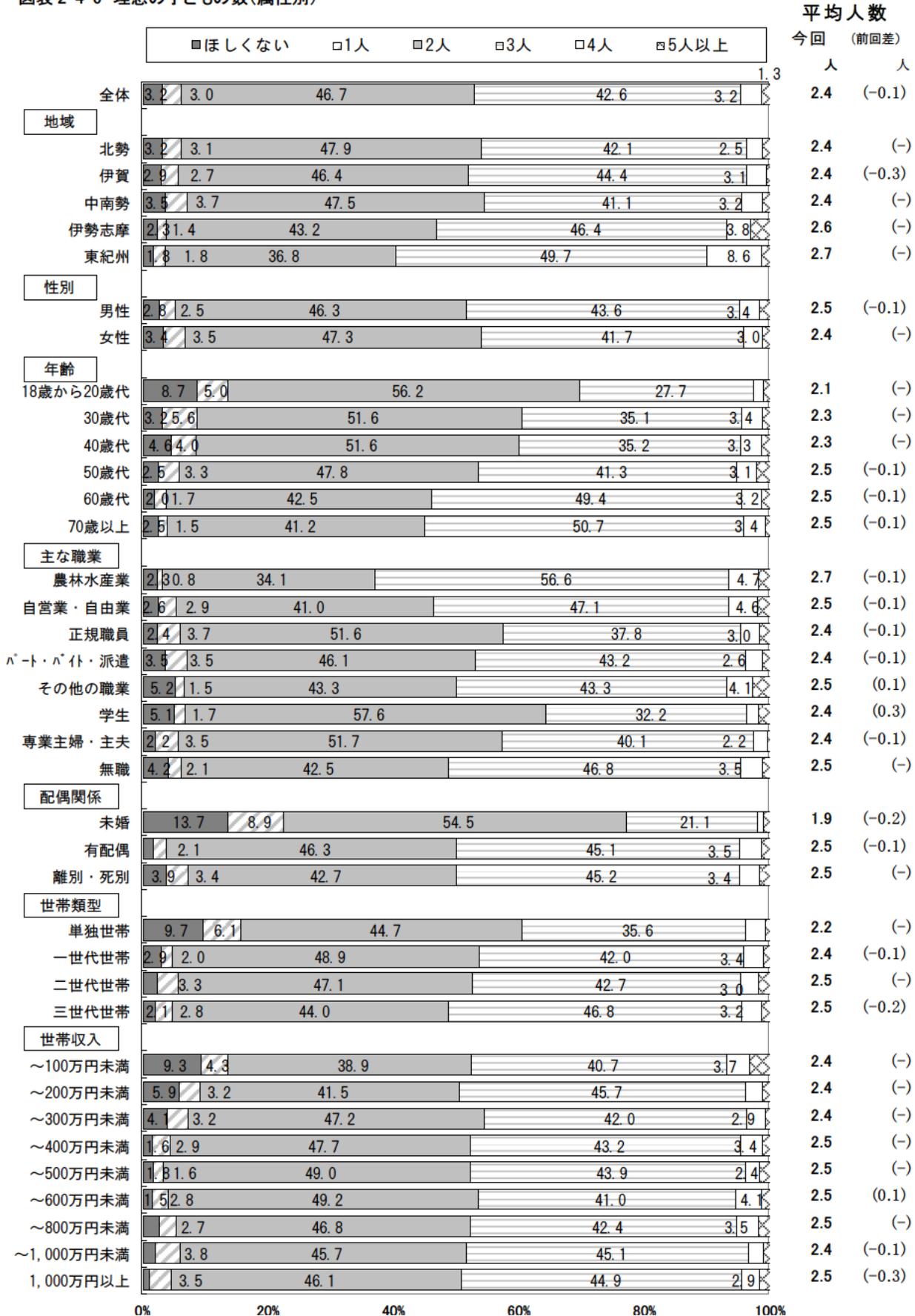
図表 2-4-5 理想の子どもの数の推移



※理想の子どもの人数が明記された回答及び「ほしくない」と回答した方を対象に割合を算出しています。

※平均値の算出にあたっては、「ほしくない」の回答を「0人」としています。

図表 2-4-6 理想の子どもの数(属性別)



※理想の子どもの人数が明記された回答及び「ほしくない」と回答した方を対象に割合を算出しています。

※平均値の算出にあたっては、「ほしくない」の回答を「0人」としています。

お子さんは何人いらっしゃいますか。いない方は「0」とお答えください。

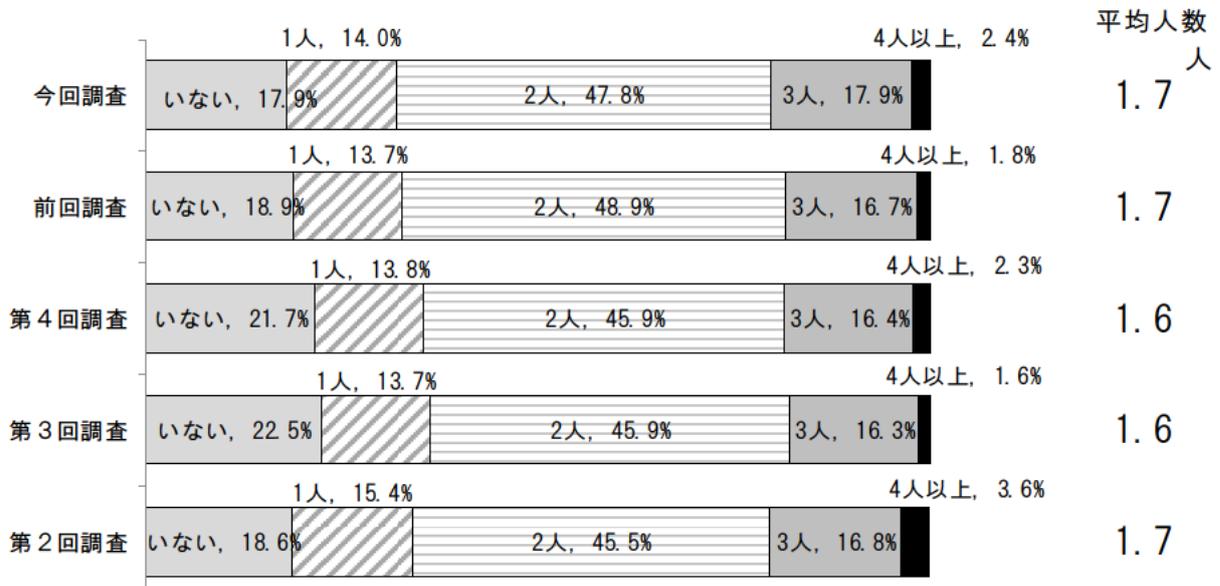
問 15

➤ 子どもの数

○ 実際の子どもの数を質問したところ、「2人」が47.8%、「いない」と「3人」が17.9%、「1人」が14.0%となっています。

なお、回答された方の子どもの平均人数は1.7人で前回調査と同数になっています。

図表 2-4-7 子どもの数



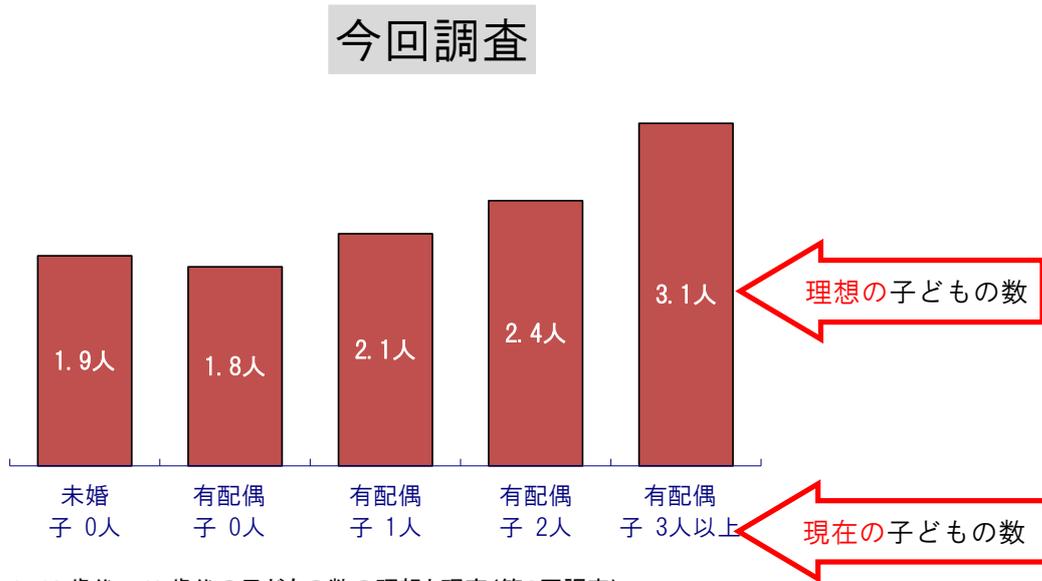
※「不明」を除いて回答割合(%)や平均人数を算出しています。

子どもの数の理想と現実のギャップ (参考集計)

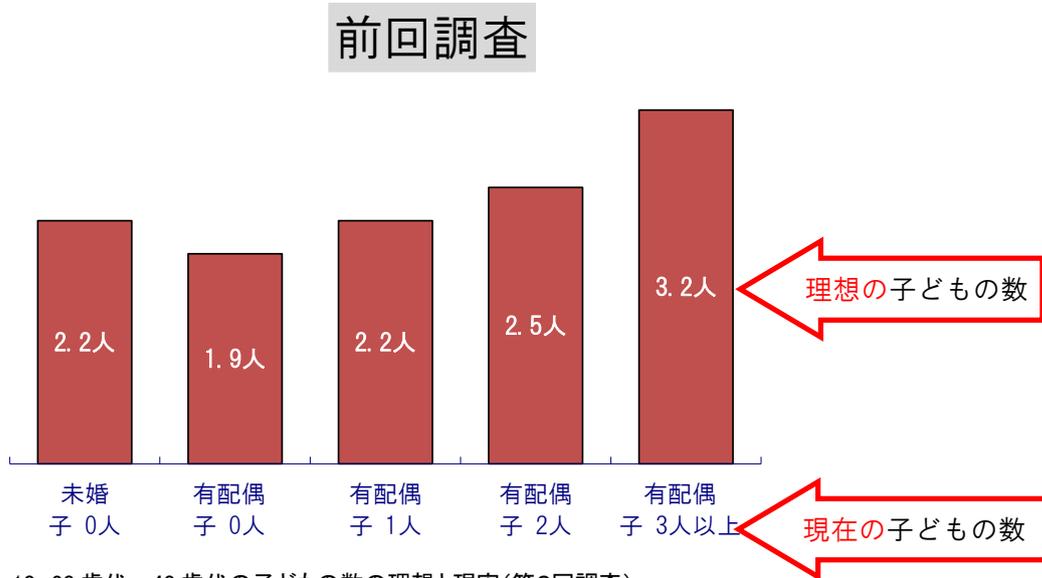
○ 20歳代~40歳代を対象に実際の子どもの数と理想の子どもの数の関係を見たところ、理想の子どもの数は、未婚で子どもいない層は1.9人、有配偶で子どもがいない層は1.8人、有配偶で子ども1人の層は2.1人、有配偶で子ども2人の層は2.4人、有配偶で子ども3人以上の層は3.1人で、実際の子どもの数は理想の数より少なく、前回調査と同様の結果となっています。

前回調査と比べると理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層で0.3人、有配偶で子ども0人、有配偶で子ども1人、有配偶で子ども2人、有配偶で子ども3人以上の層で、それぞれ0.1人ずつ減少しています。

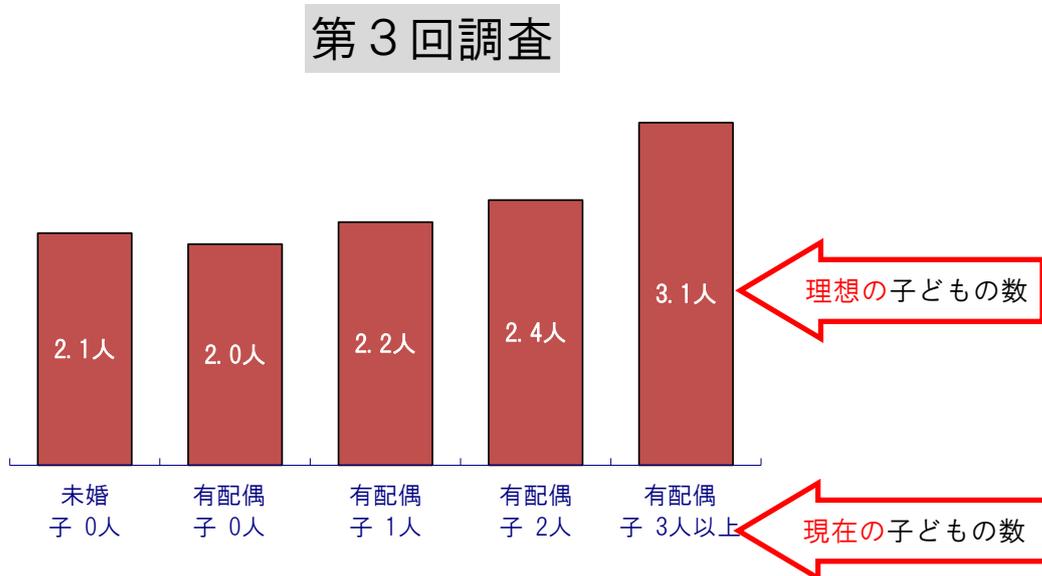
図表 2-4-8 20 歳代～40 歳代の子ども数の理想と現実(今回調査)



図表 2-4-9 20 歳代～40 歳代の子ども数の理想と現実(第3回調査)



図表 2-4-10 20 歳代～40 歳代の子ども数の理想と現実(第2回調査)



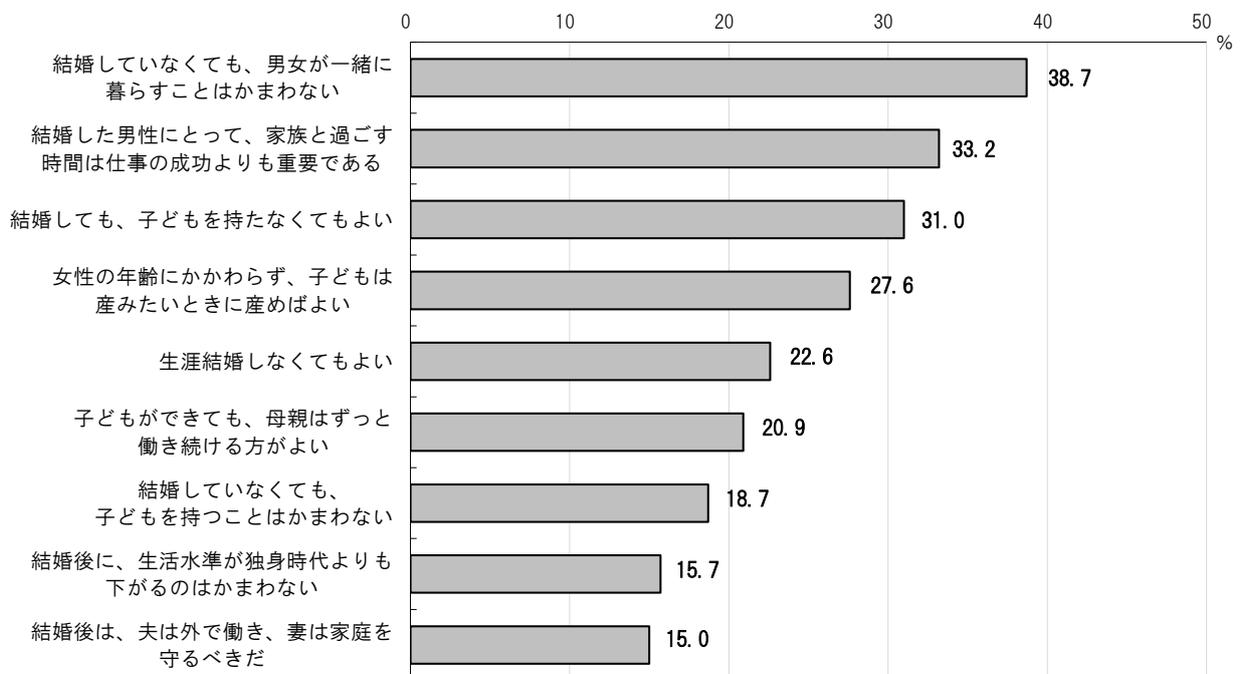
結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、次の例の中からあなた自身のお考えとして賛成できるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)
 ※本問では、賛成・反対の立場が取りやすいよう断定的な表現を用いています。
 また、必ずしも一般的でない考え方も含まれています。

問17

➤ 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについての考え方

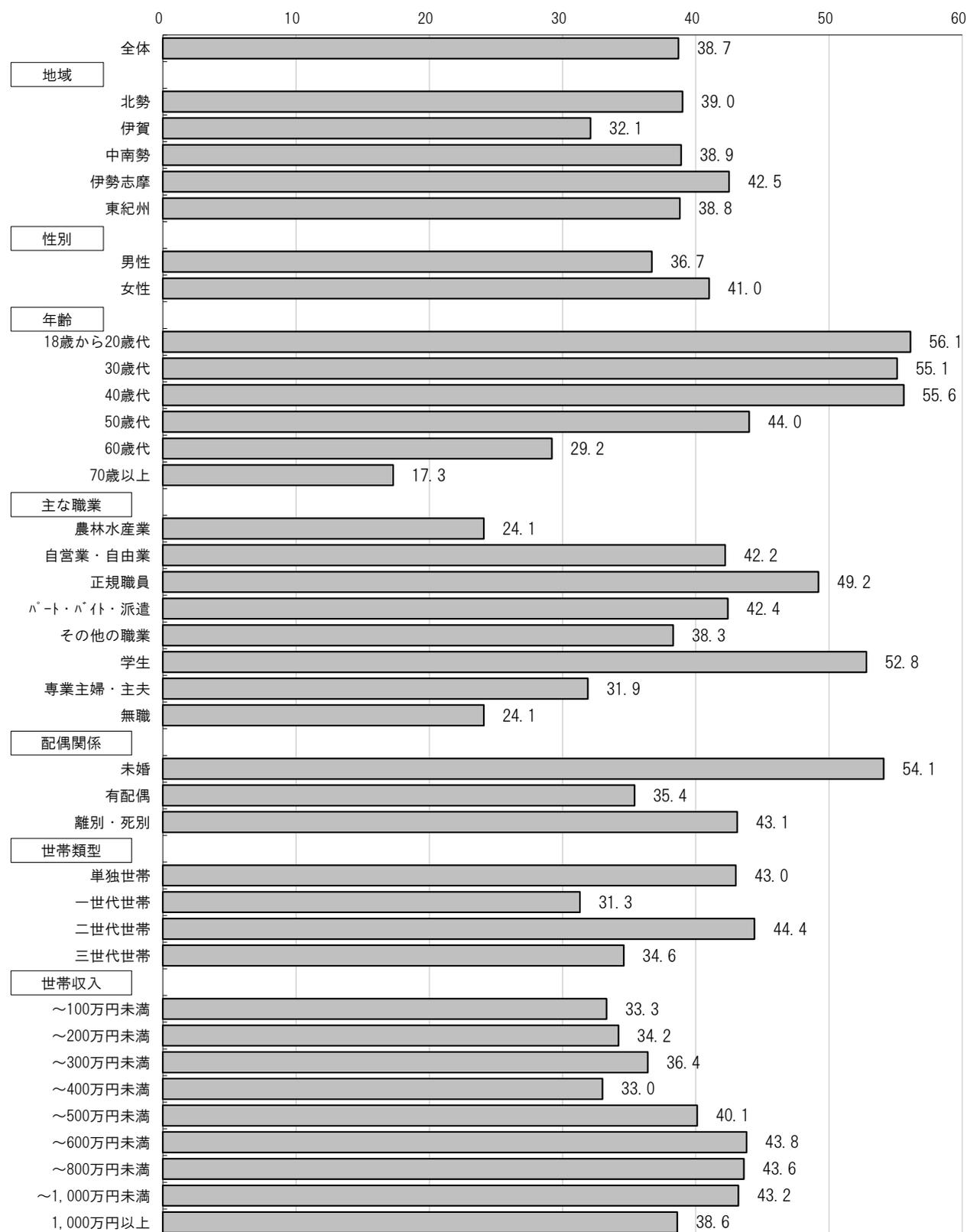
- 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについて、賛成できる考え方を質問したところ、「結婚してなくても、男女が一緒に暮らすことはかまわない」の割合が38.7%と最も高く、次いで「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要である」(33.2%)、「結婚しても、子どもを持たなくてもよい」(31.0%)の順となっています。
- 属性別における主な特徴は次のとおりです。(※統計的有意性は未確認)
 - ・男性は、「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要である」、「結婚後に、生活水準が独身時代よりも下がるのはかまわない」、「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」の割合が女性より5ポイント以上高い。
 - ・女性は、「結婚しても、子どもを持たなくてもよい」、「生涯結婚しなくてもよい」の割合が男性より5ポイント以上高い。

図表 2-4-11 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについて、賛成できる考え方

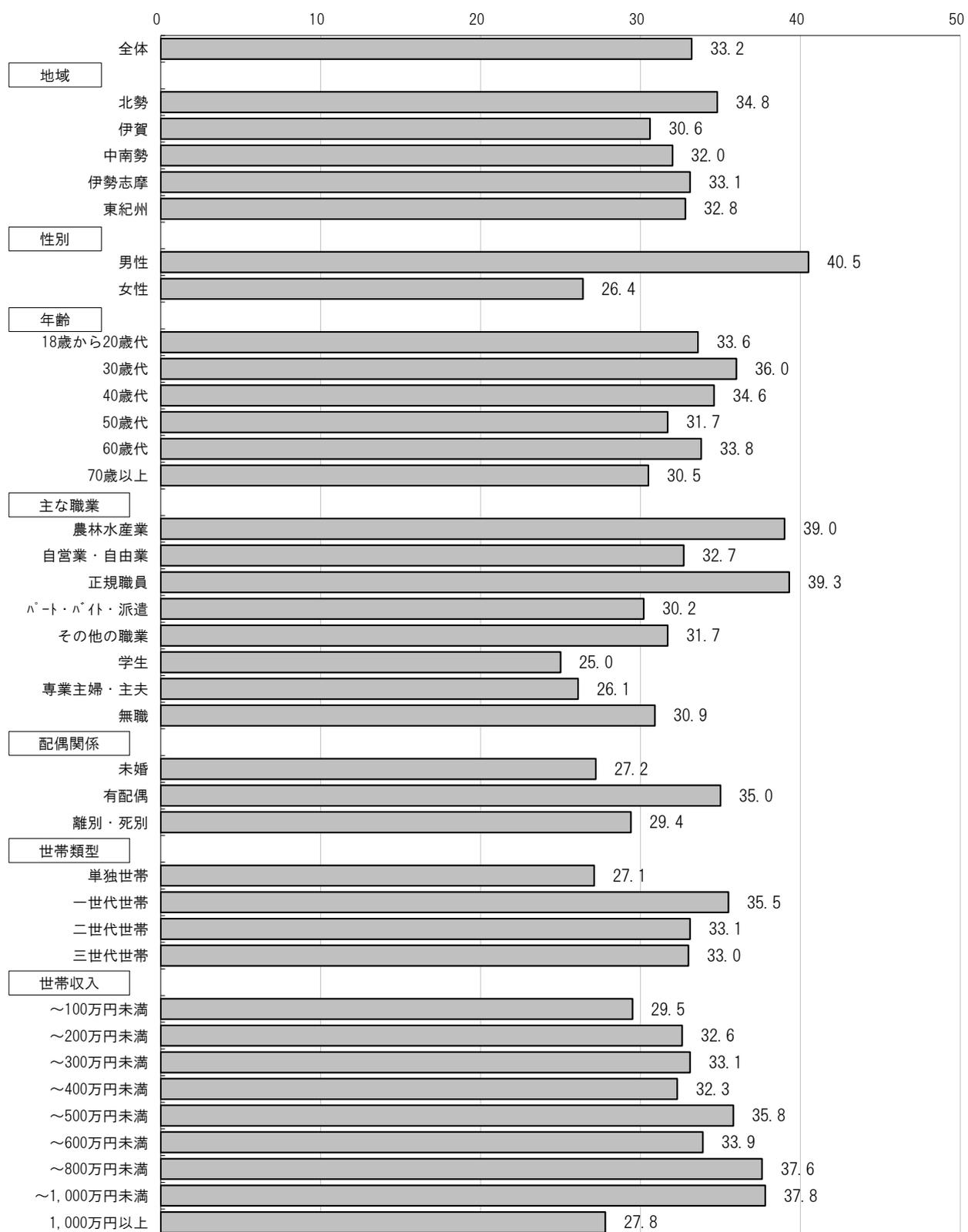


図表 2-4-12 「結婚してなくても、男女が一緒に暮らすことはかまわない」に賛成できる割合(属性別)

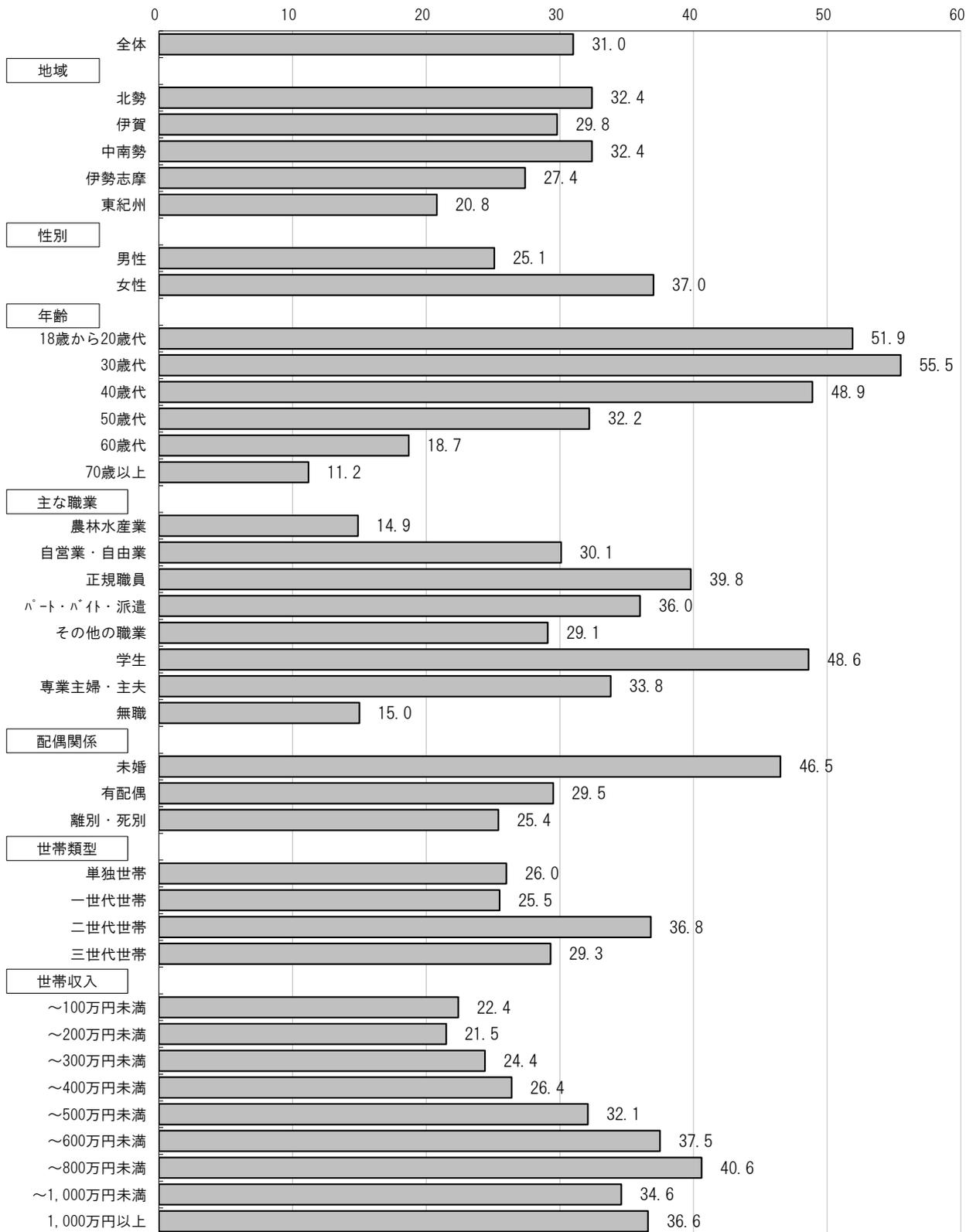
(%)



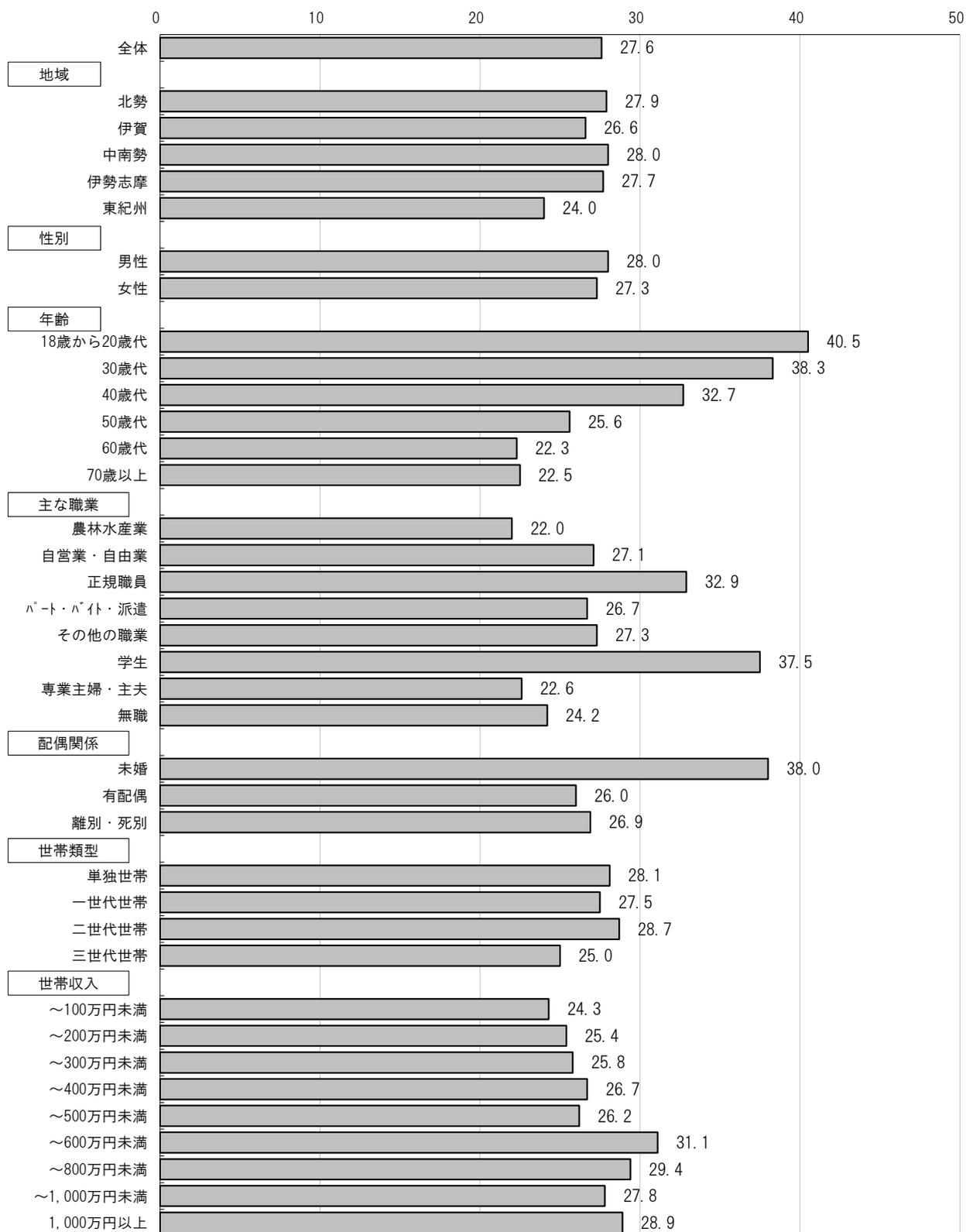
図表 2-4-13 「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要である」に賛成できる割合（属性別） (%)



図表 2-4-14 「結婚しても、子どもを持たなくてもよい」に賛成できる割合(属性別) (%)

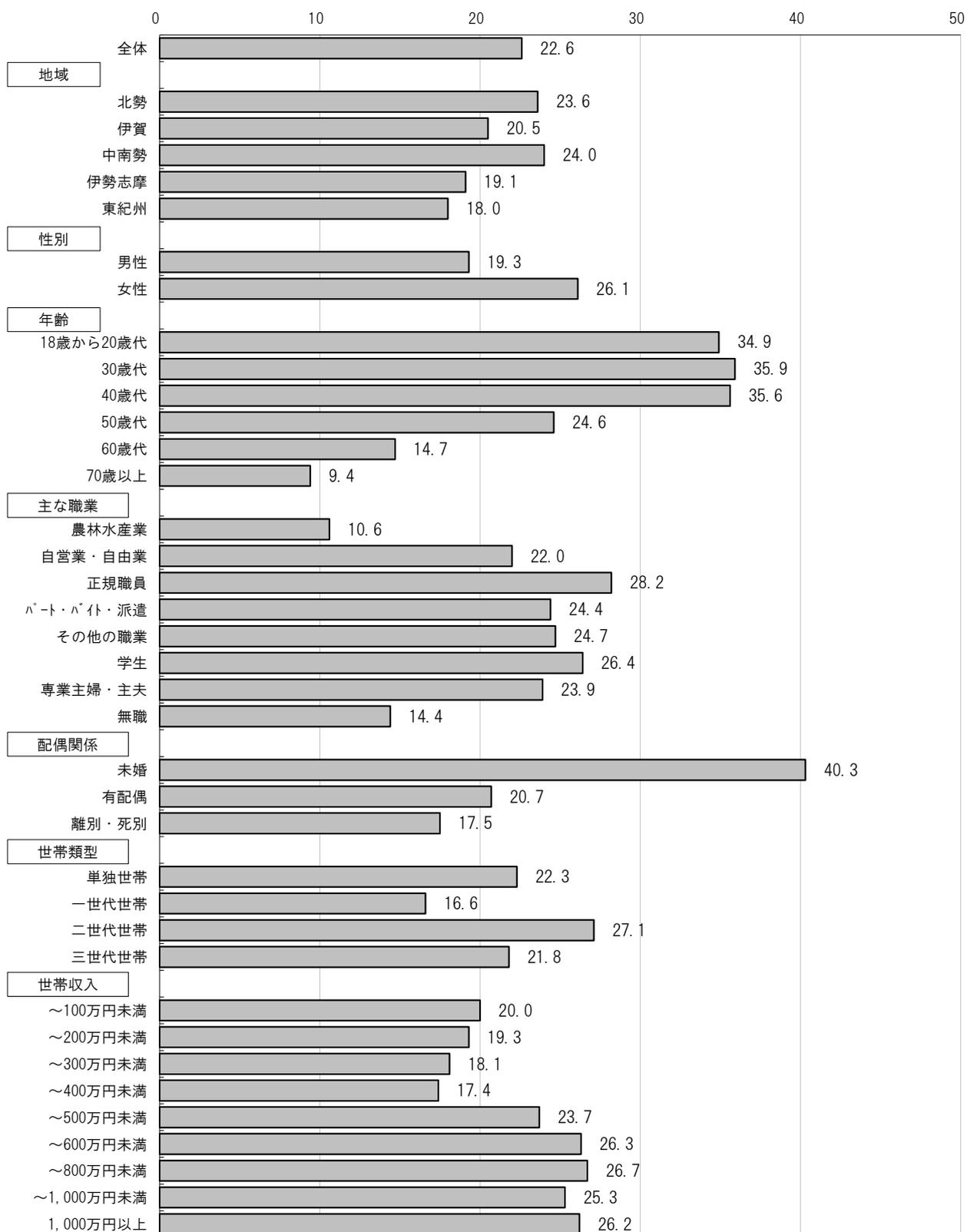


図表 2-4-15 「女性の年齢にかかわらず、子どもは産みたいときに産めばよい」に賛成できる割合(属性別) (%)



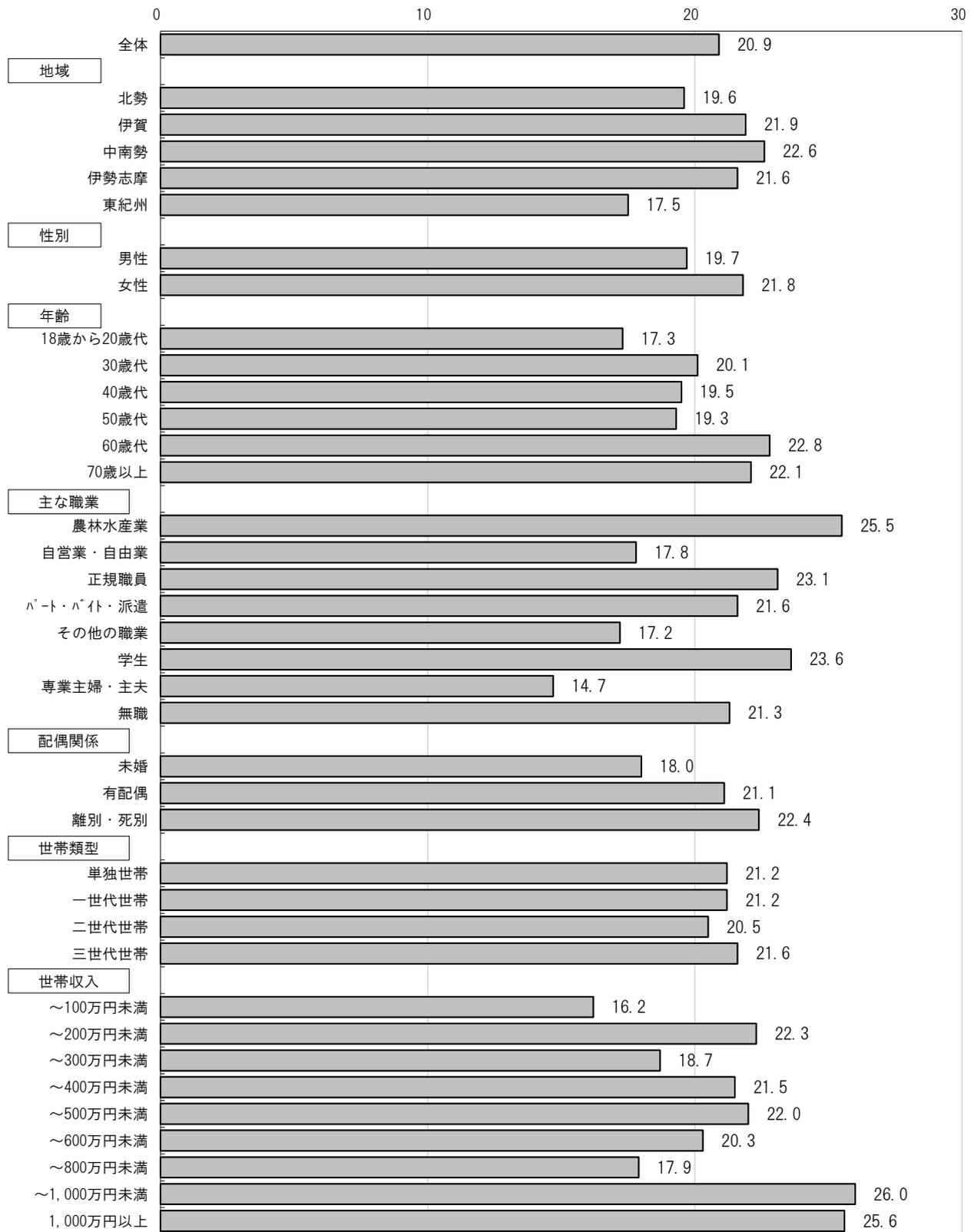
図表 2-4-16 「生涯結婚しなくてもよい」に賛成できる割合(属性別)

(%)



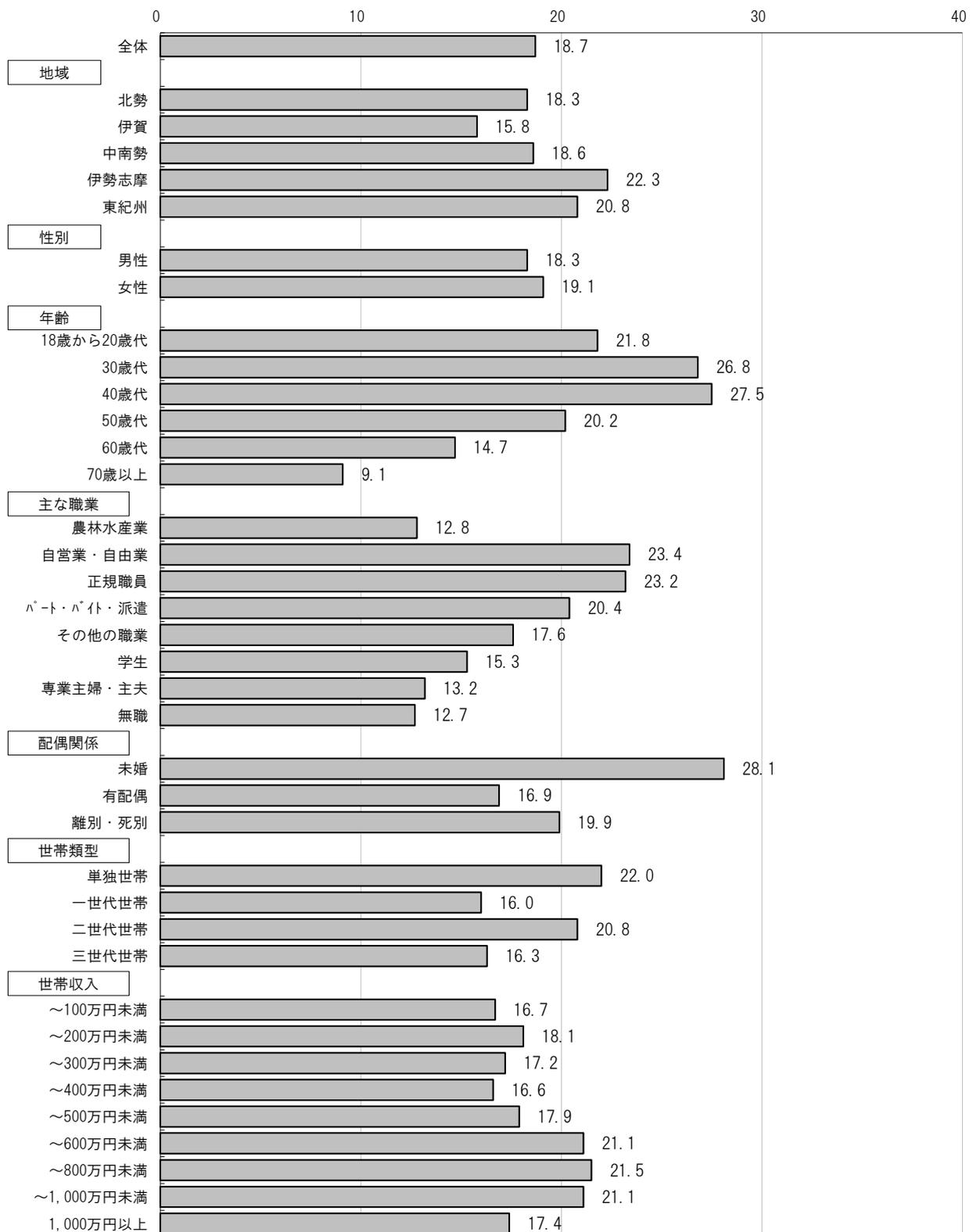
図表 2-4-17 「子どもができて、母親はずっと働き続ける方がよい」に賛成できる割合(属性別)

(%)



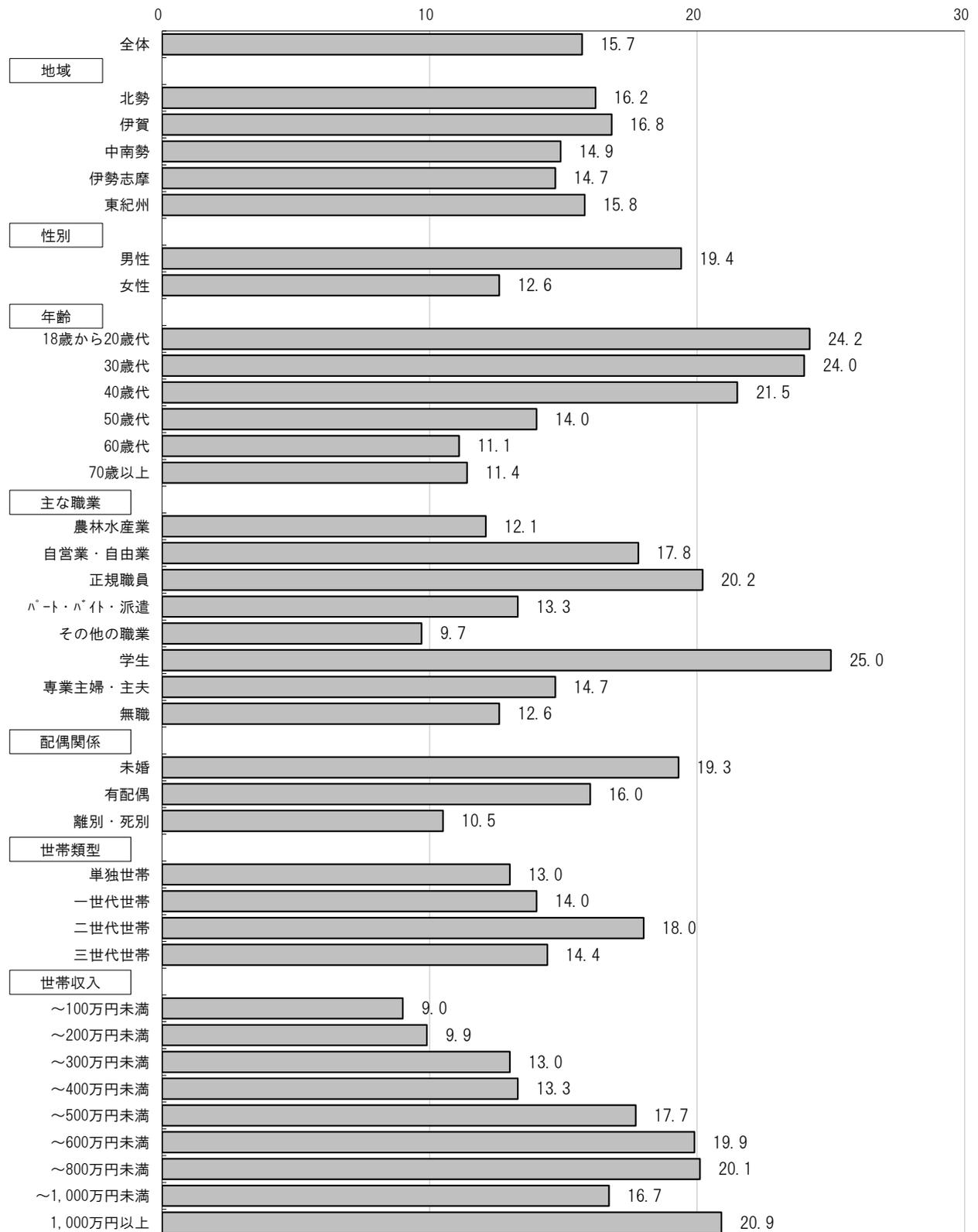
図表 2-4-18 「結婚していなくても、子どもを持つことはかまわない」に賛成できる割合(属性別)

(%)



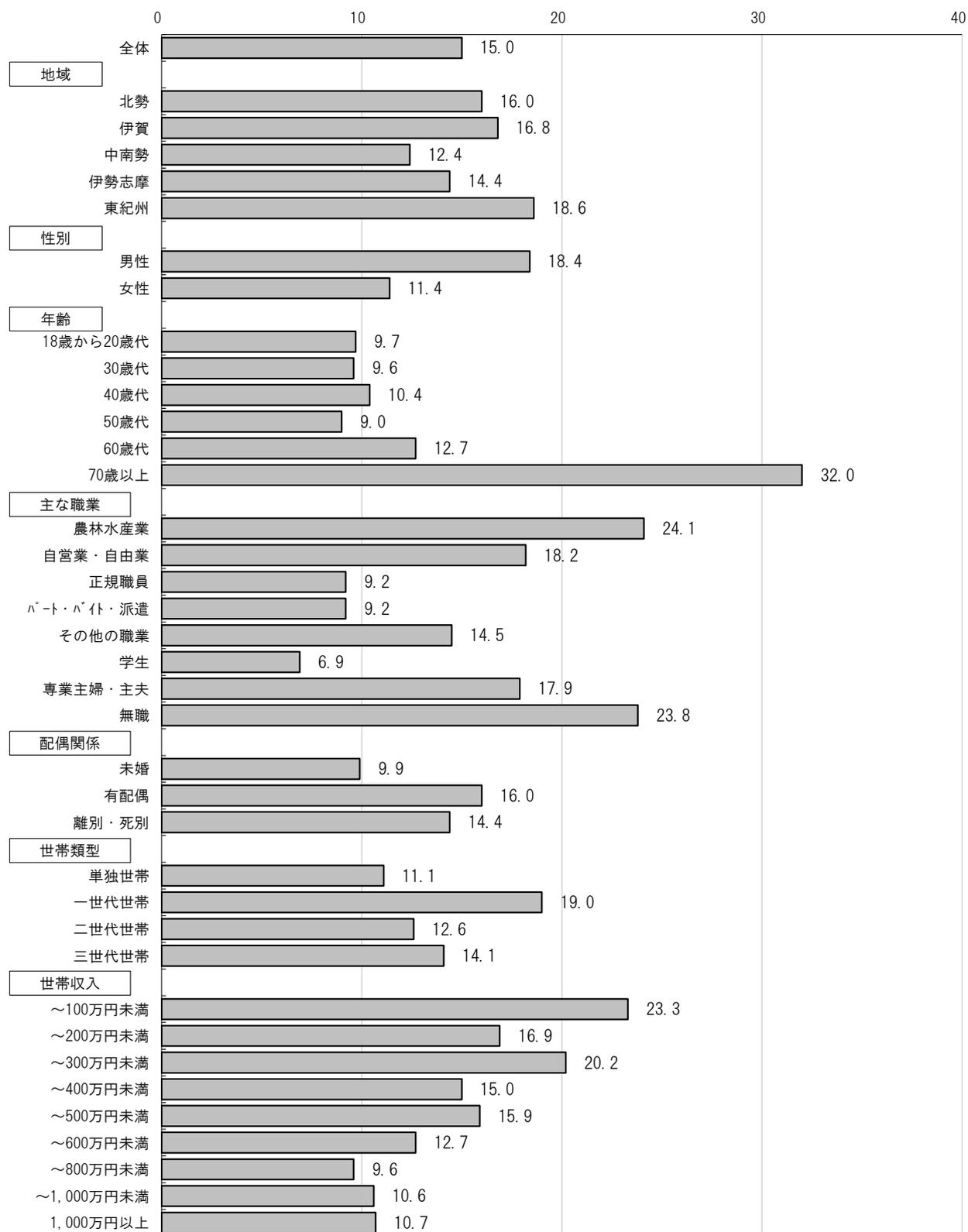
図表 2-4-19 「結婚後に、生活水準が独身時代よりも下がるのはかまわない」に賛成できる割合(属性別)

(%)



図表 2-4-20 「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」に賛成できる割合(属性別)

(%)



あなたは1日の中で、家事（炊事、洗たく、そうじなど）や育児・子どもの世話、介護などどのくらい時間をかけていますか。平日と休日に分けてお答えください。

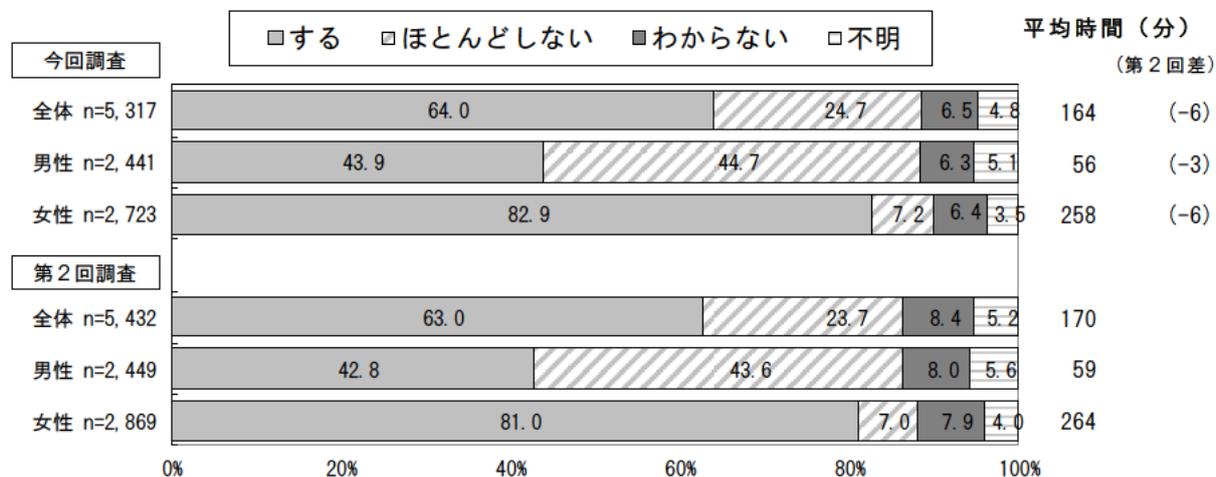
（○は1つずつ。「1」に○をつけた方は（ ）に時間も書いてください。おおよその時間でかまいません。）

問18

➤ 家事や育児・子どもの世話、介護などの時間【平日】

- 平日の家事や育児・子どもの世話、介護の時間について質問したところ、「する」の割合が64.0%、「ほとんどしない」の割合が24.7%となっています。
また、平均時間は164分（2時間44分）となっており、前回調査から6分短くなっています。
- 第2回調査と比べると、回答者全体、男女いずれにおいても、「する」の割合が高くなっている一方で、平均時間は短くなっています。
- 属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。（※統計的有意性は未確認）
 - ・ 性別では、男性は「ほとんどしない」の割合が「する」の割合より高く、女性は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高い。女性の「する」の割合は82.9%で、男性（43.9%）より、39.0ポイント高い。
平均時間をみると、女性は258分（4時間18分）である一方、男性は56分となっている。
 - ・ 年齢別では、18歳から20歳代以外の年代は「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高い。40歳以上の年代でみると、年代が若いほど「する」の割合が高くなる傾向にある。
平均時間をみると、30歳代は239分（3時間59分）と年代の中で最も長く、20歳代は118分（1時間58分）で最も短い。
 - ・ 世帯収入別では、年間収入額が高くなるほど「ほとんどしない」の割合が高くなる傾向にある。
平均時間は世帯収入額が高くなるほど短くなる傾向にある。

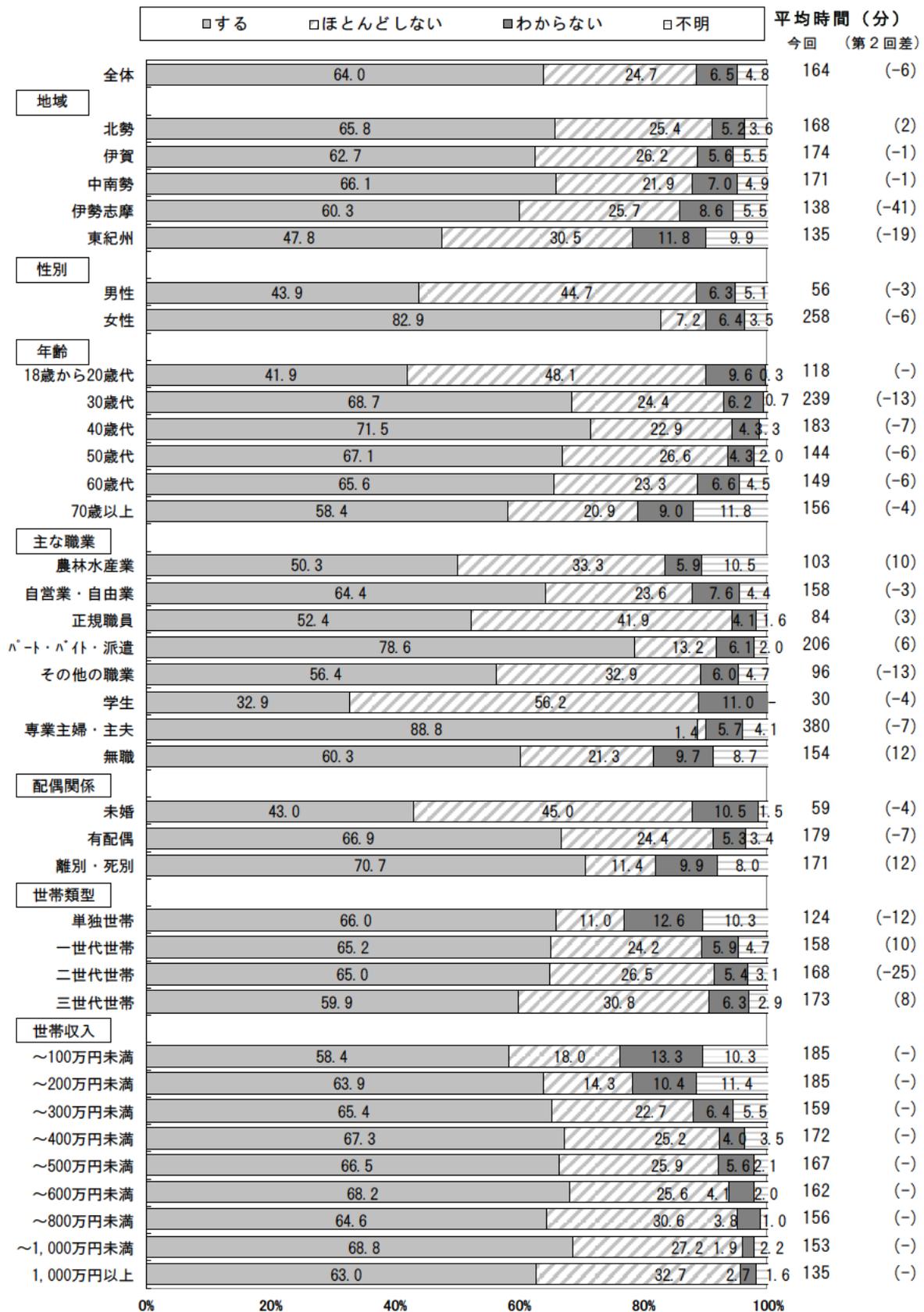
図表 2-4-21 家事や育児、子どもの世話、介護などの時間【平日】(第2回調査との比較)



※ 「する」または「ほとんどしない」と回答した人を対象に平均時間を算出

※ 平均時間については「ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「する」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出

図表 2-4-22 家事や育児・子どもの世話、介護などの時間【平日】(属性別)



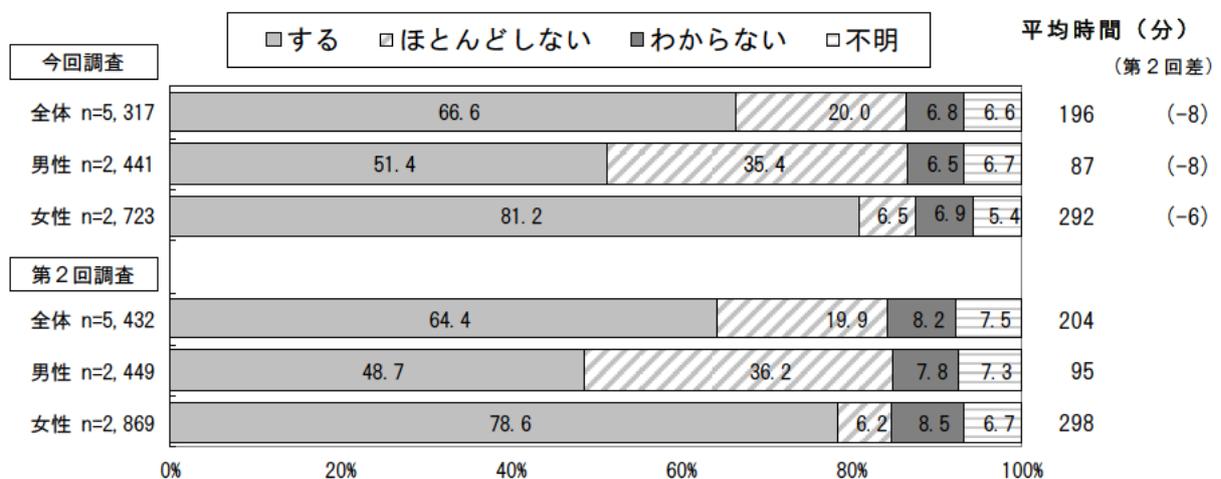
※ 「する」または「ほとんどしない」と回答した人を対象に平均時間を算出

※ 平均時間については「ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「する」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出

➤ 家事や育児・子どもの世話、介護などの時間【休日】

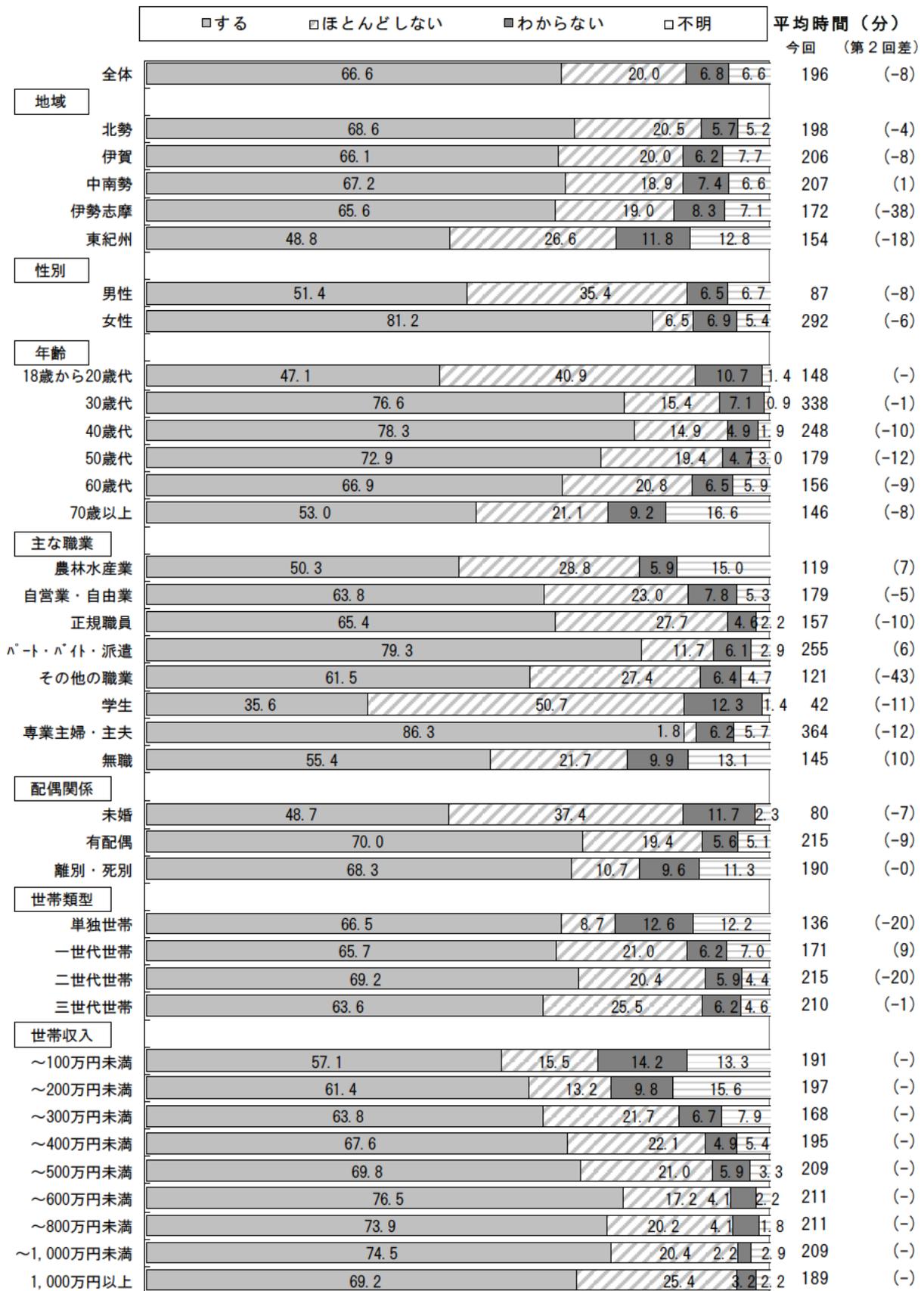
- 休日の家事や育児・子どもの世話、介護の時間について質問したところ、「する」の割合が66.6%、「ほとんどしない」の割合が20.0%となっています。
また、平均時間は196分（3時間16分）となっており、平日の平均時間164（2時間44分）より32分長くなっています。
- 第2回調査と比べると、回答者全体、男女いずれにおいても、「する」の割合が高くなっている一方で、平均時間は短くなっています。
- 属性項目間の比較において特徴が見られる主な属性は次のとおりです。（※統計的有意性は未確認）
 - ・性別では、男性、女性ともに「する」の割合が「ほとんどしない」の割合より高いが、女性の「する」の割合は81.2%で、男性（51.4%）より、29.8ポイント高い。
平均時間をみると、女性は292分（4時間52分）である一方、男性は87分（1時間27分）となっている。
 - ・年齢別では、40歳以上の年代でみると、年代が若いほど「する」の割合が高くなっており、40歳代は「する」の割合が78.3%となっている。一方、18歳から20歳代は「する」の割合が47.1%で、年代の中で最も低い。
平均時間をみると、30歳代、40歳代がそれぞれ338分（5時間38分）、248分（4時間8分）と他の年代に比べて長く、また平日の平均時間に比べてそれぞれ1時間以上長い。
 - ・世帯収入別では、100万円未満の層は「する」の割合が57.1%と世帯収入別の層の中で最も低く、500万円～600万円未満の層は76.5%と最も高い。
平日と比較すると、500万円以上の層は、「する」の割合が平日に比べてそれぞれ5ポイント以上高い。
平均時間をみると、1,000万円以上の層が189分（3時間9分）と最も短い。平日と比較すると、世帯年収が高くなるほど、平日の平均時間との差が大きくなる傾向にある。

図表 2-4-23 家事や育児、子どもの世話、介護などの時間【休日】(第2回調査との比較)



※ 「する」または「ほとんどしない」と回答した人を対象に平均時間を算出
 ※ 平均時間については「ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「する」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出

図表 2-4-24 家事や育児・子どもの世話、介護などの時間【休日】(属性別)



※ 「する」または「ほとんどしない」と回答した人を対象に平均時間を算出

※ 平均時間については「ほとんどしない」の回答を「0分」とし、「する」の回答者のうち時間が明記された回答をもとに算出